

事業完了報告書

1. 事業内容

(1) 活動日数と対応件数、および活動ボランティア数

(表 1)

月	活動日数	述べ対応ニーズ数	活動ボランティア数
9月	12日	24件	82名
10月	19日	34件	88名
11月	25日	40件	222名
12月	17日	23件	93名
1月	14日	19件	80名
2月	12日	18件	88名
3月	24日	23件	132名
計	123日	181件	785名

(2) 活動地域

千葉県鋸南町およびその周辺地域

(3) 活動内容

- ① 被災家屋における2次被害防止のための屋根や壁面等のシート養生による応急処置活動
- ② 家屋内における生活の安全・安心確保のための応急修繕活動
- ③ 敷地内における生活の安全・安心確保のための専門技術を要する瓦礫等撤去活動
- ④ 上記①～③実施のため必要な活動

「コミサポひろしま」では、9月18日（水）に関係団体との情報共有を実施し、被害の大きい地域の中でも、千葉県鋸南町において被災した家屋の修繕、特に屋根を中心とした修繕のための人員が不足していたことから、鋸南町社会福祉協議会と連携した活動を開始しました。

主な活動は、(3)で記載の通り、被災家屋における雨漏り等2次被害を防止することにより、被災者が安心・安全を感じて生活できる住環境を少しでも整え、今後の生活再建に繋げることを目的とし実施しました。

活動に当たっては、過去、コミサポひろしまが活動した「熊本地震」「鳥取県中部地震」「島根県西部地震」等と比較し、鋸南町が日常的に強風に見舞われる地域であることから、当初の土嚢袋等を使用した内容から、より強風に耐えられるよう、ルーフィングの活用や養生面を最小限に留める手法を試行錯誤し実施しました。また、過去の経験から、工務店等による本格的な修繕に複数年を有することを考慮し、ブルーシートではなくシルバーシートを活用するなど耐久性にも考慮した修繕を行うことで、被災者の安心に繋がる活動を心がけました。

合わせて、活動に際しては高所での危険が伴うことから、連携団体である「ピースボート災害支援センター」等と協働で「高所作作業車」を活用するとともに、十分に安全帯やロープ等装備を整えた上で活動を行うことにより、安全に配慮し実施しました。

結果、(表 1)に記載の通り、9月～3月に述べ181件のニーズに対応することができ、被災住民の生活再建に一定程度貢献できたと考えます。

2. 事業評価

1) 事業目標の達成状況：

【契約時の目標】

上位目標：地域、被災者の生活再建が一日も早く成し遂げられる。

到達目標：地域・被災者の安心・安全の確保、不安の除去

活動目標：①被災家屋における雨漏りの防止

②家屋内における応急修繕の実施

③敷地内における専門技術を要する瓦礫等撤去

数値目標：述べ200世帯前後

【目標の達成状況】

数値結果：181件 であり、当初目標の9割を達成している。加えて連携する団体と協力した被災家屋への「畳応援プロジェクト※畳の提供」等実施していることを考慮するとほぼ数値目標は達成しており、到達目標である「地域・被災者の安心・安全の確保、不安の除去」は可能な範囲で達成できたと考えます。

なお、数値以上に重要な成果として、活動を共にした地元ボランティアが、地域の担い手となる団体「Revive」を立ち上げ活動を開始したことにより、今後も引き続き上位目標に繋がる活動が期待されることが目標の達成度を測る上で最も大きな要因とも考えます。

※「Revive」については 2) で記述

2) 事業実施によって得られた成果：

活動によって、地域、被災者の生活再建が一日も早く成し遂げられるための安心・安全の確保、不安の除去を行われた。具体的な成果としては

①被災家屋における雨漏りが防止された

②家屋内における応急修繕が行われ生活環境の改善が行われた

③敷地内における安全を脅かす瓦礫等撤去が行われた

また、前述の通り

④地域の生活再建・復興の担い手となる団体「Revive」が設立され、地域における主となる活動を担うようになった

ことが最も大きな成果であった。

3) 成功したこととその要因：

①鋸南町社会福祉協議会、ピースポート災害支援センター、ADRA Japan 等、関係する機関との協働住民が活動の中心であり、地域が主体となることを念頭に活動を実施するとともに、そのためには各団体との協働を密にして実施することが大切になると考えています。

「コミサポひろしま」では、地域の主体である鋸南町社会福祉協議会との情報共有を密に協働し、各団体とも十分な協議や連携のもとで活動を行ったことが、今回の活動成果を残した大きな要因と考えています。

②地域の担い手の育成を目指したボランティアコーディネート、ノウハウの伝達

過去、鳥取県中部地震後に倉吉市に立ち上がり、今も活動する「復興支援隊 縁」。2018年西日本豪雨の活動地であった呉市・天応地区で立上り活動する「つなごう@天応」のように、地域の担い手となる団体が立上ることが、その地域の生活再建・復興に最も重要であると考えており、今回、現地で活動した代表小玉が、そのことを常に意識して活動を行いました。

「外部者であるコミサポひろしまが前に出過ぎず、地域の担い手となり得る人に活動を託してみること」「その地域の将来、被災者の思いに寄り添うこと」それぞれに丁寧に実施したことが成果につながったと考えます。

4) 失敗したこととその要因：

①安全管理について

活動期間中、大きな怪我・事故は発生しなかったものの、日常的に強風に見舞われる地域での活動においては安全管理は最も重要だと考えます。

必要に応じて「高所作業車」の活用も行ったものの、より安全に万全を期すためには、参加するボランティアへの安全管理の徹底は必要であったと考えます。

3. 事業成果物

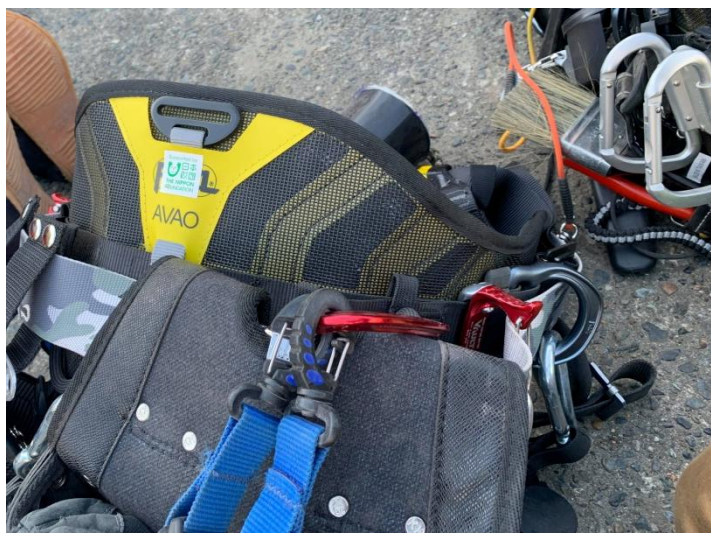
具体的な活動報告書は今後作成予定

なお、以下、支援団体の作成したVTRあり <https://www.youtube.com/watch?v=BPB-55OjIM&t=7s>

他、日々の活動についてはFBにて毎日掲載 <https://www.facebook.com/comsup.hiroshima>

4. 添付資料

(写真)



(購入備品等 ※抜粋)



(車両へのマグネットの装着 ※抜粋)



(活動風景①)



(活動風景②)



(強風対策、耐久性を考慮したシルバーシート、粘着性ルーフィングの使用)



(茅葺屋根への対応と高所作業車の活用)



(茅葺屋根の修繕後)



(波板等を活用した修繕)



(室内生活環境の改善)

以上